

日本退職教職員協議会
各単会 会長様

日本退職教職員協議会
会長 西澤 清

「沖縄と連帯する日退教第9次沖縄交流団」

団員の募集について（案内1）

沖縄県内の基地は、住宅地と飛行場、住宅地と演習場の距離が接近しすぎているだけでなく、島の周りには訓練空域や訓練海域が張り巡らされています。事故はどこでも起こりうる、それが沖縄の現実です。

さる2月4日、投開票がおこなわれた沖縄県名護市長選は、現職だった稲嶺進氏を破り、自民・公明・維新が推薦した渡具知武豊氏が当選となりました。安倍首相は早速、「市民の理解をいただきながら、最高裁判決に従って進めていきたい」と述べ、辺野古移設推進の民意が得られたという見解の発言をおこないました。

選挙前、普天間飛行場所属のオスプレイやヘリの墜落、部品落下、不時着などの事故、トラブルが相次ぎました。読谷村で1月8日、攻撃ヘリコプターAH1が不時着しました。その2日前の6日にも多用途ヘリUH1がうるま市に不時着。一昨年12月には、名護市沿岸でオスプレイが着水大破し、昨年10月は東村で大型ヘリCH53Eが不時着炎上。12月には普天間飛行場に隣接する普天間第二小学校の校庭に、重さ約8キロの窓を同型機が落としました。子ども達のすぐそばに。一つ間違えば県民を巻き込む惨事につながりかねない重大事案が続きました。

県は米軍に対策を申し入れ、県議会や市町村議会は事故発生たびに飛行中止などの抗議決議を可決し、米軍に抗議しました。年がら年中この繰り返しです。このような事態は日本中どこを探してもありません。そのような状態が戦後70年以上も続いているのです。

この名護市長選において、当選した渡具知氏は、辺野古移設の是非について一切あきらかにせず、選挙の争点にしてきませんでした。自民党は「大物議員」や「タレント・人気議員」を応援に駆り出し、デマに基づいて稲嶺市政非難を繰り返しました。その上、安倍政権は渡具知氏が当選すれば、稲嶺市長就任後の2010年から名護市で支給が止まっている再編交付金の交付対象とする方針を打ち出し、実際、当選から一夜明けて、政府は交付する方向で検討に入ったといいます。

しかし、渡具知氏および自民党が「辺野古移設」を争点にしなかった以上、この市長選の結果を「移設は民意」と捉えることはできません。渡具知氏は「海兵隊の県外・国外移

転」を公約に掲げ、選挙期間中、辺野古移設の是非には触れませんでした。

朝日新聞など3社が共同で実施した出口調査によると、辺野古移設に「反対」「どちらかと言えば反対」は合わせて64・6%に上りました。

安倍首相は先の衆院選でも、憲法改正について街頭演説では一言も話題にすることなく、選挙が終わるや否や「自民党としての案を国会の憲法審査会に提案していきたい」と表明。今年はじめの年頭記者会見でも「憲法改正に向けた国民的な議論をいっそう深めていく。自民党総裁として、そのような1年にしたい」などと言い出しました。争点を隠しておきながら選挙後に「民意が得られた」と言うやり方は、安倍政権にとって選挙必勝法です。

沖縄県・高退教は、名護市長選における「稲嶺進」さんの必勝を期して、全力でとりくみました。日退教は各単会のみなさまに両退教への積極的な支援・応援を要請いたしました。現地両退教、各単会の皆様の取り組みに敬意を表します。

米軍キャンプ・シュワブ、ゲート前では、名護市長選後も連日、新基地建設に反対する市民が抗議活動を続けています。海岸に延びる仮設道路建設資材を搬入する工事用車両は、座り込む市民を排除し、多い日で200台を越えてゲート内に入っています。さらに沖縄防衛局は、辺野古新基地建設用の石材を海路でキャンプ・シュワブの建設現場に搬入しはじめました。ゲート前の座り込みで滞っている陸路の搬入を補い、作業を加速する狙いがあります。

普天間基地撤去・辺野古新基地建設反対の運動は「沖縄の運動」ではなく私たちの運動として、ひきつづき両退教とともにとりくみます。

日退教はこれまで8次にわたる「沖縄と連帯する日退教交流団」を組織し、現地で新基地建設に反対し行動する県・高退教の仲間、県民・支援者とともに短時間ではありますが、ともに行動してきました。

このような情勢の中で、下記のとおり、第9次交流を企画しました。各単会の皆様の積極的な参加を要請します。

記

「沖縄と連帯する日退教第9次沖縄交流団」

「基地の現状を学び、辺野古新基地建設工事に抗議しよう」

- 1 日程
 - ・ 下記日程は現時点での予定です。ご承知ください。詳細はこの工程を基本に現地県退教・高退教と今後さらに調整します。
 - ・ キャンプシュワブゲート前での行動に参加します。
 - ・ 今回は2日間の日程です。翌日以降、辺野古座り込み行動など希望のある方はご相談ください。

2018年 4月 23日 (月) 学習・交流懇親会 (於・会場未定)

- 14:30 受付
- 15:00 学習会 (内容検討中)
- 17:30 交流懇親会

4月 24日 (火) 辺野古キャンプシュワブゲート前座り込み、抗議行動ほか

- 7:30 集合・出発 (沖縄県庁前)
各米軍基地周辺 (普天間基地周辺)
辺野古 (キャンプシュワブゲート前)
大浦湾を海上から
瀬嵩浜
- 17:00 那覇着 (県庁前)

- 2 募集人員 20人 (日退教申し込み後、定員に達している場合は速やかに連絡を入れます)
- 3 集合・解散 現地集合、現地解散となります
- 4 交通・宿泊 現地までの交通手段、宿泊は各自ご手配ください。
- 5 参加費 10,000円 (バス代、昼食代、会場費、懇親会代、実費精算)
- 6 申込締め切り 参加申し込みは各単会でまとめて日退教へ
4月2日 (月) 日退教締め切り
- 7 その他 日程詳細は参加者に連絡いたします。

以上

「沖縄と連帯する日退教第9次沖縄交流団」

2018年4月23日（月）～24日（火）

参加者申込み名簿

申し込み日 2018年 月 日

単会名	
連絡責任者	

参加者お名前（年齢）	(〒) 住 所	電話《できれば携帯》	Fax
()	(〒)		
()	(〒)		
()	(〒)		
()	(〒)		

注 「第9次沖縄交流団」参加者申し込み締め切りは4月2日（月）です

日退教 FAX 03-5275-2081